

調査研究委員会報告

I 令和元年度から令和3年度までの3ヵ年計画で次の調査研究を行った

- 1 調査研究のテーマ
学習指導に関する調査研究
～新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導と学習評価についての調査研究～
- 2 調査研究の目的
学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、実践的・体験的な学習活動を通してよりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指すとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が図られるよう、その方策等について調査研究を行い、家庭科教育の充実に資するものとする。
- 3 調査研究の方針
 - (1) 学習指導要領改訂の趣旨を具現化するために学習指導及び学習評価の改善・工夫について調査研究し、指導資料として提言する。
 - (2) 委員会を二つのグループに分け、共通教科2科目について調査研究を進める。
 - (3) 家庭科の校長、教頭、指導主事等のワーキンググループを編成して、組織的に作業を進める。
 - (4) 事例収集や調査及び還元等には、全道の家庭科研究協議会や各地区の家庭科研究協議会等にも協力を仰ぐ。
- 4 調査研究の内容
 - (1) 共通教科2科目「家庭基礎」「家庭総合」について改訂の趣旨の理解を深める指導資料や、シラバス、単元の指導・評価計画等、指導資料の調査研究及び提供
 - (2) 主体的・対話的で深い学びによる授業改善に資する単元の指導・評価計画、学習指導案等の調査研究及び提供
 - (3) 問題発見・問題解決能力等を育成する「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」に係る単元の指導・評価計画、学習指導案等の調査研究及び提供
- 5 調査研究期間
平成31年4月から令和4年3月までの3年間
- 6 調査研究のスケジュール
 - (1) 調査研究テーマ検討・決定（調査研究委員会） H31. 4
 - (2) 調査研究内容の検討 R1. 5～R1. 7
 - (3) 調査研究の概要の決定（調査研究委員会） R1. 7
 - (4) 調査研究活動の実施 R1. 8～R2. 1
 - (5) 調査研究の中間まとめ（調査研究委員会） R2. 2～R2. 3
 - (6) 調査研究中間報告・新年度計画の変更決定（書面役員会・書面総会） R2. 4～R2. 5
 - (7) 調査研究活動の実施（情報収集、部会Webページ掲載資料作成） R2. 6～R3. 2
 - (8) 調査研究の中間まとめ（書面役員会・部会Webページ研究成果掲載） R3. 2～R3. 3
 - (9) 調査研究中間報告・新年度計画決定（書面役員会） R3. 4～R3. 5
 - (10) 調査研究を反映した指導資料等の概要の決定（調査研究委員会中止） R3. 7
 - (11) 調査研究活動の実施 R3. 8～R3. 11
 - (12) 調査研究のまとめ・指導資料発行（調査研究委員会） R3. 11～R4. 3

II 令和3年度報告

- 1 令和3年度は、上記6の(10)～(12)を実施し、まとめの指導資料を発行した。
- 2 実践事例の掲載
 - ① 新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導と学習評価についての調査研究
北海道美瑛高等学校森本鈴菜教諭による高齢者の福祉と関わりに関する実践事例
3観点による評価の先進的実践事例
 - ② 主体的・対話的で深い学びによる授業改善に資する単元の指導・評価計画、学習指導案等の調査研究
ホームプロジェクト活動と学校家庭クラブ活動における「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価に係る実践例
- 3 家庭部会WEBページへの資料集掲載
(北海道江別高等学校全日制ホームページ 北海道高等学校長協会家庭部会バナーの委員会より閲覧)

Ⅲ 令和４年度北海道高等学校長協会家庭部会調査研究委員会組織

家庭部会長	(江 別) 田邊 禎明		
調査研究委員長	(月 形) 宮崎 円		
調査研究委員 (14名)	(札幌丘珠)	飯田 知男	(置 戸) 長尾 勝恵
	(三 笠)	藤田 博史	(手 稲) 吉田 岳夫
	(野 幌)	壽淺 章洋	(千歳北陽) 渡邊 周一
	(函館大妻)	池田 延己	(当 別) 宮本 匠
	(名寄産業)	坂野 裕悦	(倶知安) 谷川 敬一
	(登別青嶺)	坪井 克彦	(広 尾) 小島 政裕
	(釧路明輝)	三浦 治彦	

Ⅳ 令和４年度調査研究計画

- 1 調査研究のテーマ
小規模校における家庭科教育の現状と課題
- 2 調査研究の目的
本道では、広域分散型の地理的特性により、地元高校以外の高校への通学が困難な地域が多数存在している。一方で、中学校卒業生数の減少により高校の小規模化が進み、全体の3割近くが1学年1クラスの高校である。
このような小規模校においては、必修修科目である家庭基礎2単位または家庭総合4単位の授業のみならず、さまざまな選択授業を設定して家庭科教諭の配置に工夫をこらしており、少ない教員集団の中でも家庭科教員の果たす役割は大きいと考えられることから、現状と課題について調査研究を行い家庭科教育の充実に資するものとする。
- 3 調査研究の内容
令和３年度の地域連携特例校27校の家庭科教諭ならびに生徒に家庭科教育に関するアンケートを実施し、現状ならびに課題について考察する。また、中・大規模校との比較検討も継続して実施する。
なお、この調査研究については、令和4年度の全国高等学校長協会家庭部会秋季大会（福井大会）にて発表を予定している。